

第2章

現状と課題

1. 村の概要
2. 村の生涯学習の現状
3. 村の生涯学習施策
4. 第三次北塩原村生涯学習推進計画の成果と課題



第2章 現状と課題

1 村の概要

(1) 北塩原村及び近隣市町村等の人口の推移

北塩原村の人口は、1955年(昭和30年)にピークの5,468人となり、その後、減少に転じました。

1985年(昭和60年)から1995年(平成7年)にかけては、大型ホテル等の観光施設や個人宿泊業(ペンション等)の開業等により、一時的に人口も増加、1990年(平成2年)に3,812人に回復しました。しかし、その後は社会経済情勢の影響等もあり、転入の流れも弱まって、転出超過となり、2005年(平成17年)に3,475人、2010年(平成22年)に3,185人、2015年(平成27年)に2,831人と推移しています。

2015年(平成27年)国勢調査によると、福島県の人口は2011年(平成23年)の東日本大震災時に起きた東京電力原子力発電所の事故の影響を受け、200万人を大きく下回っています。

●近隣市町村等の人口の推移(国勢調査)

(単位：人、%)

	2005	2010	2005⇒2010 増減率	2015	2010⇒2015 増減率
福島県	2,091,319	2,029,064	△ 3.0	1,914,039	△ 5.7
福島市	297,357	292,590	△ 1.6	294,247	0.6
会津若松市	131,389	126,220	△ 3.9	124,062	△ 1.7
郡山市	338,834	338,712	△ 0.0	335,444	△ 1.0
喜多方市	56,396	52,356	△ 7.2	49,377	△ 5.7
北塩原村	3,475	3,185	△ 8.3	2,831	△ 11.1
西会津町	8,237	7,366	△ 10.6	6,582	△ 10.6
磐梯町	3,951	3,761	△ 4.8	3,579	△ 4.8
猪苗代町	17,009	15,805	△ 7.1	15,037	△ 4.9

(2) 北塩原村の人口及び世帯数の推移

世帯数は、1985年（昭和60年）に926世帯でした。その後の大型ホテル開業に伴う従業員の転入、松陽台団地や村営住宅の整備、供用により増加したものの、近年は減少傾向にあります。

2015年（平成27年）の世帯数は1,008世帯、平均世帯人数は2.71人となり、ともに減少傾向にあります。5～6人の世帯が減少するなか、2人世帯が増加するなど、進学や就職を契機に村で生まれ育った若者が転出し、親世代のみとなる傾向がみられます。

●人口及び世帯数の推移（国勢調査）

（単位：人、世帯）

年	人口			世帯数	一般世帯						その他世帯	1世帯当り
	総数	男	女		総数	1人	2人	3～4人	5～6人	7人以上		
1990	3,812	1,865	1,947	994	992	158	184	282	233	135	2	3.84
1995	3,859	1,893	1,966	1,188	1,188	347	208	287	241	105	0	3.25
2000	3,644	1,783	1,861	1,094	1,093	261	231	291	215	95	1	3.33
2005	3,475	1,718	1,757	1,106	1,103	288	238	323	186	68	3	3.15
2010	3,185	1,590	1,595	1,052	1,049	242	270	332	152	53	3	3.04
2015	2,831	1,434	1,397	1,008	1,004	248	284	325	110	37	4	2.71

人口年齢構造を2010年（平成22年）と2015年（平成27年）とで比較してみると、0～14歳人口は91人の減、15～64歳人口も271人も減となっています。

65歳以上人口は8人の増と微増ですが、14歳以下、15～64歳人口の減もあり、少子高齢化の進行が懸念されます。

●人口（年代別）の推移（国勢調査）

（単位：人）

年	合計	0～14歳	15～64歳						65歳～		
			小計	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～64歳	小計	65～74歳	75歳～
1990	3,812	744 19.5%	2,377 62.4%	204	325	547	472	829	691 18.1%	430	261
1995	3,859	640 16.6%	2,359 61.1%	253	404	414	619	669	860 22.3%	549	311
2000	3,644	521 14.3%	2,197 60.3%	236	377	388	543	653	926 25.4%	519	407
2005	3,475	439 12.6%	2,101 60.5%	193	357	312	447	792	935 26.9%	411	524
2010	3,185	415 13.0%	1,879 59.0%	129	280	304	371	795	891 28.0%	345	546
2015	2,831	324 11.4%	1,608 56.8%	116	193	279	300	720	899 31.8%	399	500
	増減	▲91	▲271	▲13	▲87	▲25	▲71	▲75	+8	+54	▲46

2 村の生涯学習の現状

(1) 村民

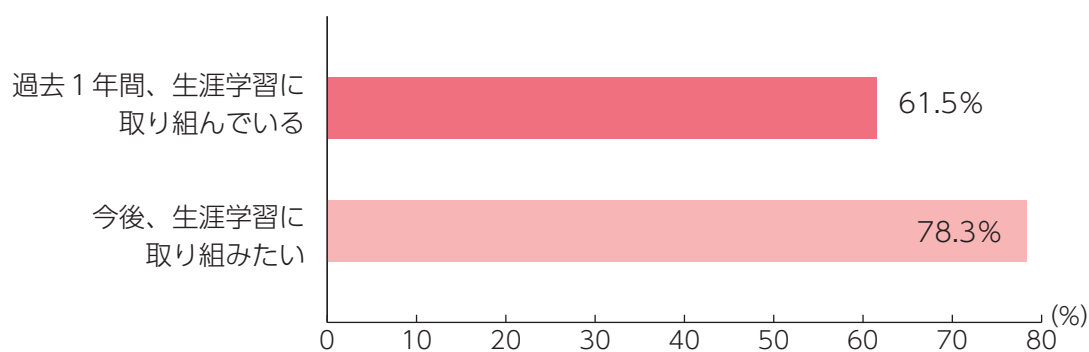
今回実施しました村民アンケート調査によると、過去1年間に生涯学習に取り組んだ人は61.5%です。今後取り組みたいと考える人は78.3%で、多くの村民が生涯学習に取り組みたいと考えています。

取り組んだ内容は「スポーツやレクリエーション活動」「趣味に関すること」「行政区や地域団体での活動」をはじめ多様な分野にわたっています。生涯学習の目的については「健康や体力づくりのため」「仕事や家事以外で生きがいを持つため」「人間関係を豊かにするため」が多くなっています。

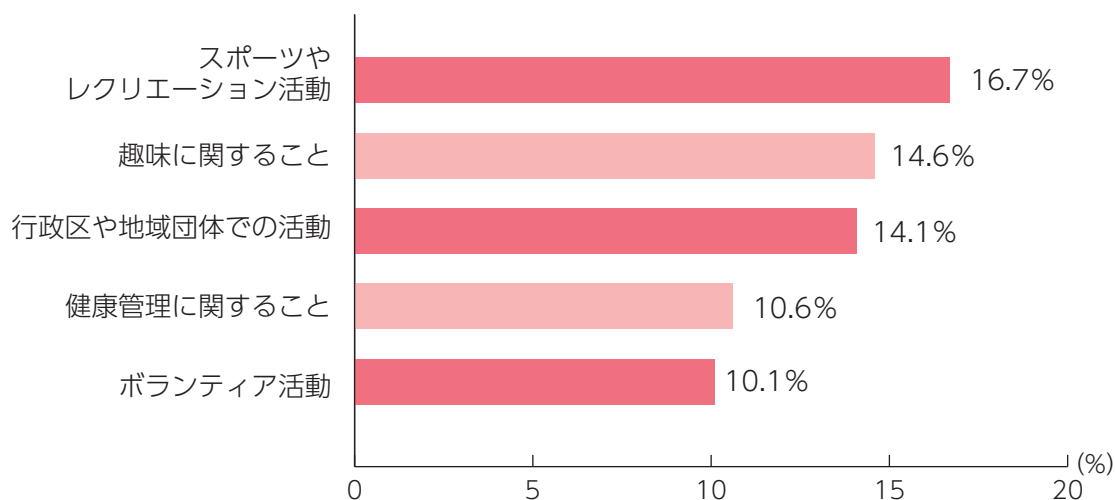
生涯学習に取り組むとき問題となる点について、「時間に余裕がない」「希望する内容のものがない」などがあがっています。

また、村民の週1回以上の運動やスポーツ実施率は41.3%で、文化的な活動の実施率は14.7%です。村民の月1回以上の文化的な活動の実施率は33.7%です。

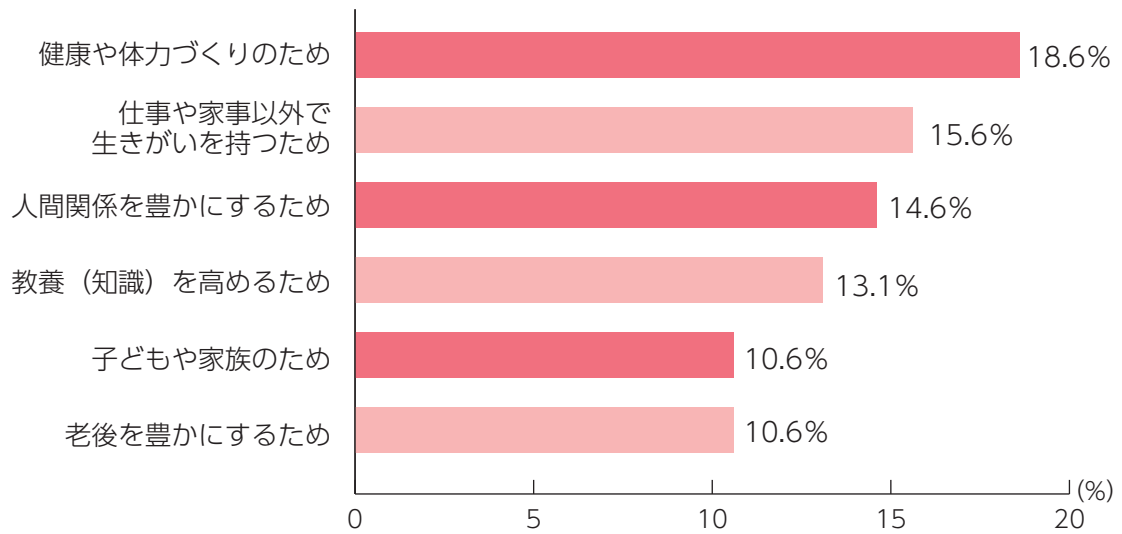
① 生涯学習の取り組み状況と今後の意向〔※資料編 P64 問6・P69 問9-1 参照〕



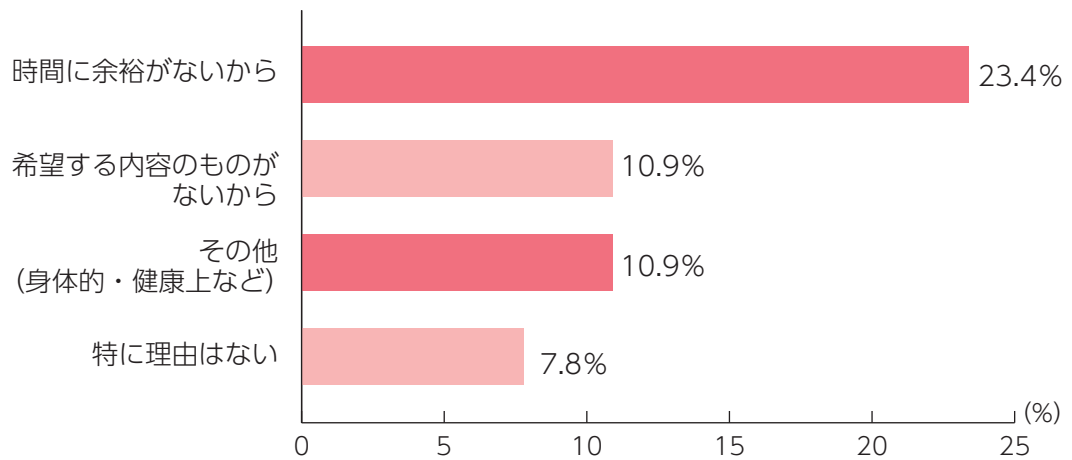
② 取り組んだ分野（上位5項目）〔※資料編 P65 問7-1 参照〕



③ 生涯学習の目的（上位6項目）〔※資料編 P65 問 7-2 参照〕

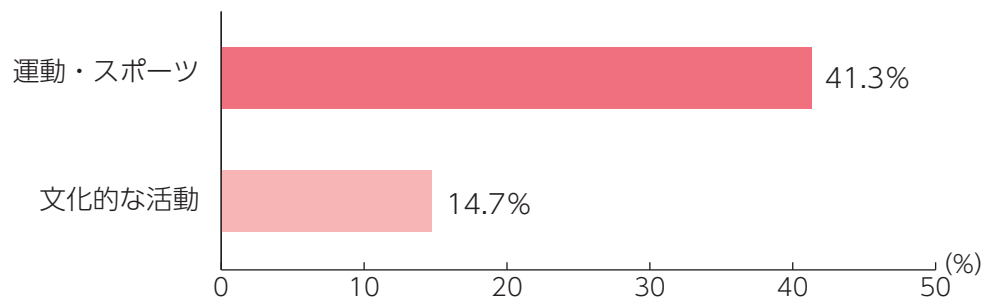


④ 生涯学習を行う上で問題となること（上位4項目）〔※資料編 P69 問 8 参照〕



⑤ 村民の週1回以上の運動・スポーツ及び文化的な活動の実施状況

〔※資料編 P78 問 19-1・P79 問 20-1 参照〕

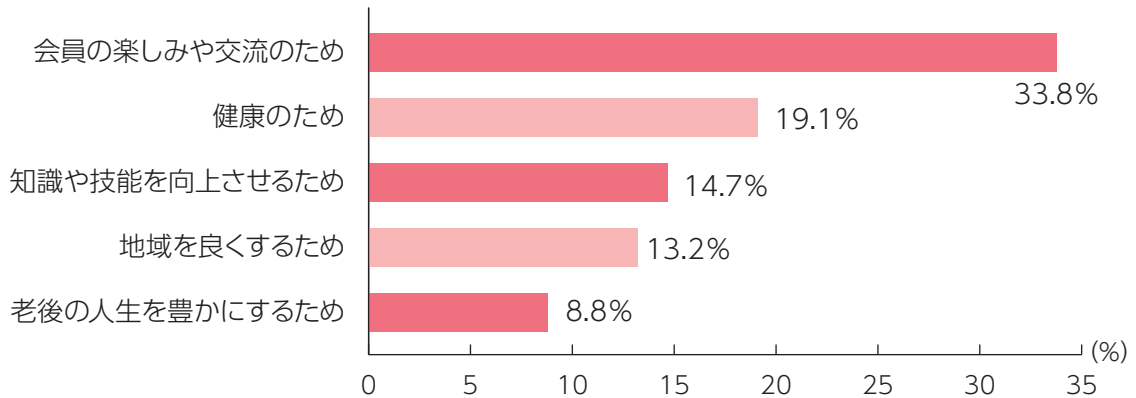


(2) 団体

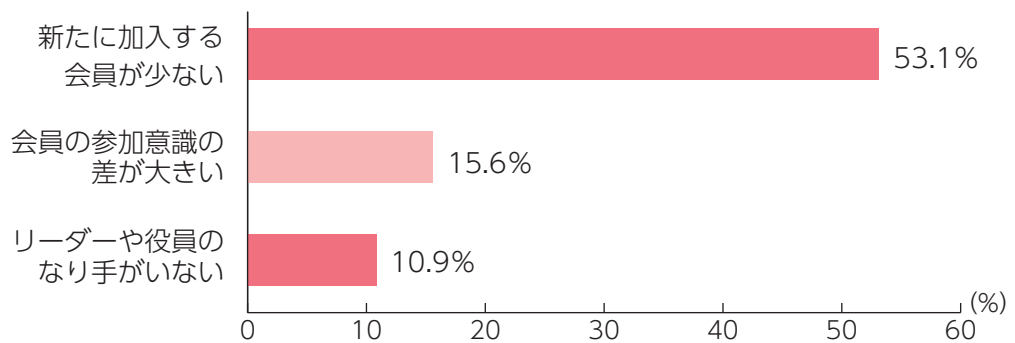
今回実施しました団体アンケート調査によると、活動目的は「会員の楽しみや交流のため」「健康のため」「知識や技能を向上させるため」などが多く、活動をする中での課題は、「新たに加える会員が少ない」「会員の参加意識の差が大きい」「リーダーや役員のなり手がいない」など、メンバーに関する課題が上位となっています。

村民アンケート調査で行った村体育協会や村文化団体連絡協議会の存在や活動内容を知らない人は73.5%で、加入したいと思わない人は69.3%です。その主な理由は「どんな活動をしている団体があるのかわからない」「いつ活動しているのかわからない」などが多くなっています〔※資料編 P81 問 21-3 参照〕。

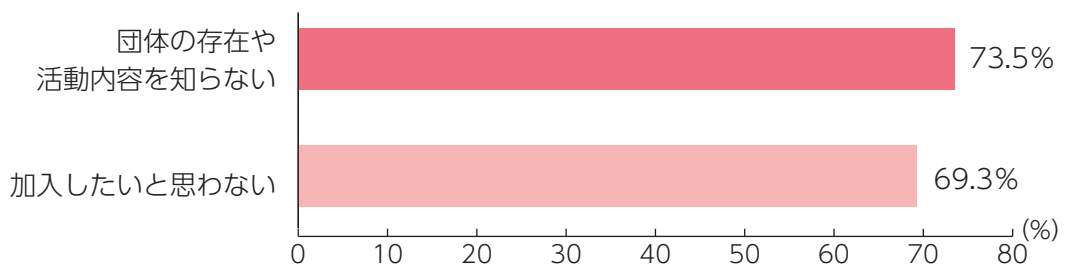
① 活動目的（上位5項目）〔※資料編 P89 問 7 参照〕



② 活動をする中での課題（上位3項目）〔※資料編 P89 問 8 参照〕



③ 団体の認知度と加入の意向〔※資料編 P81 問 21-1・問 21-2 参照〕



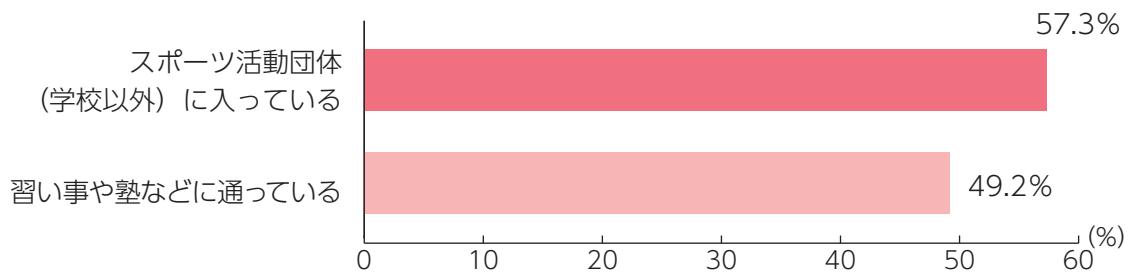
(3) 青少年

今回実施しました青少年アンケート調査によると、スポーツ少年団などのスポーツ活動団体に入っている人は57.3%で、習い事や塾に通っている人は49.2%です。

小・中学生がスポーツ活動団体に入るためには「好きなスポーツ種目の活動団体が近くになれば入りたい」「もともと興味がない」などが多くなっています。また、小・中学生が行っている習い事は「塾」「ピアノ・習字・そろばん」が多くなっています〔※資料編 P98 問 5-2 参照〕。

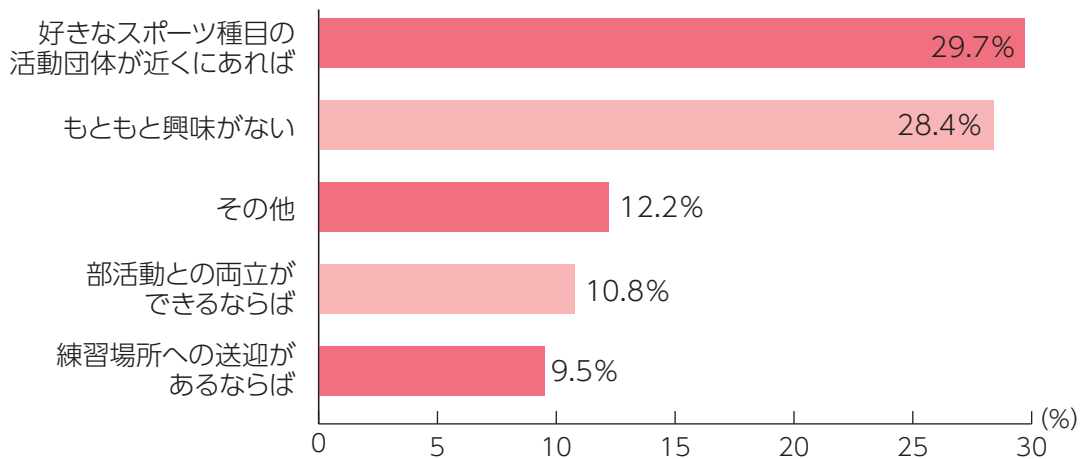
① スポーツ活動団体への加入及び習い事や塾の利用状況

〔※資料編 P96 問 4-1・P98 問 5-1 参照〕



② 小学生のスポーツ活動団体に加入する条件 (上位5項目)

〔※資料編 P97 問 4-4 参照〕



アクティブスポーツ



火の山杯スポーツ大会・バレーボール競技

3 村の生涯学習施策

(1) 事業

本村の生涯学習施策は、教育、スポーツ、文化、芸術、歴史、健康づくり、福祉、子育て支援など多様な分野にわたっています。本村の生涯学習施策のうち、主な生涯学習事業は次のとおりです。

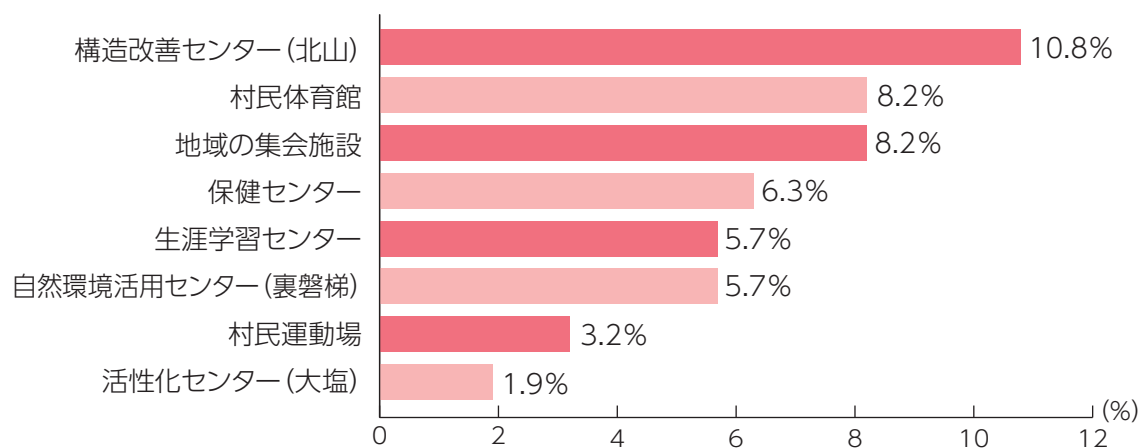
事業名	概要
村民向け各種講座等	生涯学習センターや保健センター、教育施設等において、各種講座や地域特性を活かしたスポーツ・運動教室を開催し、学習機会を提供する。
学社連携による事業	学区ごとに幼稚園・学校・地域合同による運動会と文化祭を開催。世代間交流を図る。
成人式	村内在住及び村の中学校を卒業した者の成人を祝う事業。学び舎を共にした同郷の成人者が一同に会する機会を提供する。
きたしおばら交流フェスタ	村民相互のコミュニケーションを深めるため、全村民が一堂に集う機会を設け、地域間・世代間の交流を促進する。
県内市町村対抗競技大会	駅伝・野球・ソフトボール競技について県内の市町村が一同に会する競技大会。体力向上や地域の活性化、市町村間交流を図る。
杉並区交流自治体スポーツ交流会	杉並区と交流のある自治体とスポーツ（家庭婦人バレーボール）を通じて親睦を図り、友好の輪をひろげる。
スポーツ少年団本部事業	青少年がスポーツ活動を通して交流・連携を図り、心身の健全な育成に資する。
学校の応援団	地域住民が子ども達を「地域で見守り・地域で育てる」事業。地域住民の特技等を活かすことができる場となることで「生きがい」づくりにもつなげる。
文化財保存利活用事業	村の歴史や文化、自然などの文化財の保存調査整備を行い、講演会や展示、工芸体験を通して村の歴史資産を村内外に発信する。
地域活動や人材育成に向けた補助制度	地域づくり活動や地域コミュニティ担い手の育成に向けた補助制度を設け、村民の主体的な参画を促す。
生涯学習カレンダーの制作	行政情報やイベントの開催、学校の行事予定など、各種団体等の年間を通した情報を伝えるカレンダーを作成し、村民に周知する。
友好都市交流事業	希望する小・中学生を沖縄・台湾に派遣。異文化学習により、視野を広げ、豊かな人間性と社会性を養う。
磐梯山ジオパーク活動	磐梯山を中心に自然の楽しみ方や保全の在り方、防災や歴史・文化などに触れ、郷土の素晴らしさを再確認し、郷土愛の醸成を図る。
きたしおばら大使事業	きたしおばら大使を活用した社会教育事業の実施により、村への意識の高まりやスポーツ技術の向上を図る。
東京農業大学連携事業	大学生に村の魅力を発信することによる1ターンや新規就農者の確保、新たな作物の導入に加え、学生と村民の交流を深める。
高齢者生きがい健康づくり事業	高齢者の生きがいと健康づくりを図るため、活動への支援や発表・交流の場を提供し、元気な高齢者を増やす。

(2) 生涯学習施設

北塩原村生涯学習センターをはじめ、各地区には拠点となる生涯学習施設が整備されています。

生涯学習施設の利用経験についてアンケートを行ったところ、「自宅・友人・知人宅」「その他（近隣市町村の施設が多数）」「構造改善センター」の利用が多いです。各地区の拠点となっている「構造改善センター」「生涯学習センター」「活性化センター」「自然環境活用センター」を利用したことがある人は累計で24.1%となっており、そのうち「生涯学習センター」を利用したことがある人は5.7%となっています。どの施設においても利便性の向上や、村民へのPRに取り組む必要があります。

① この1年間の主な生涯学習施設の利用状況〔※資料編 P67 問 7-5 参照〕



ラウンジルーム（生涯学習センター）



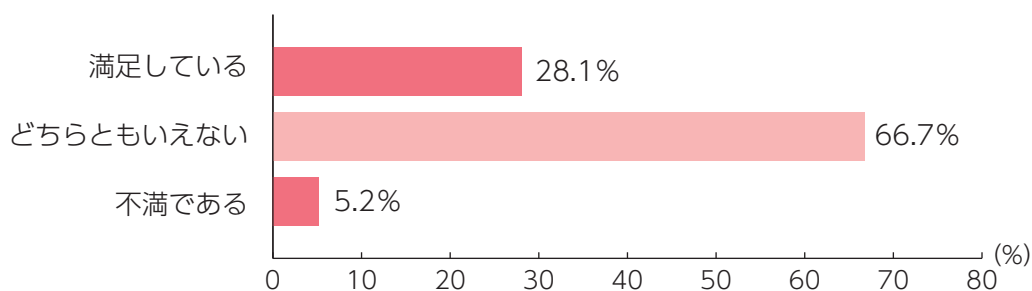
料理教室（保健センター）

(3) 村民の評価と期待

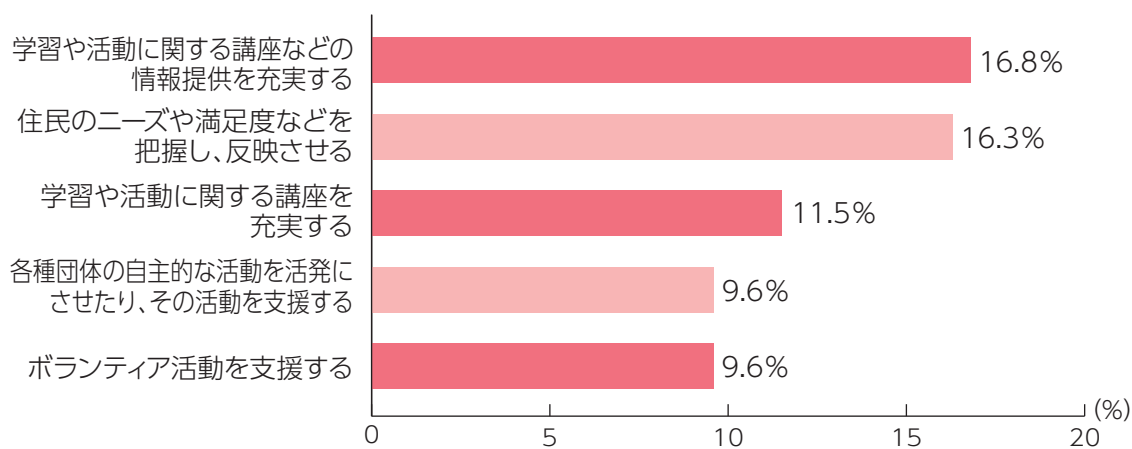
生涯学習施策の村民の満足度については、28.1%の人が「満足」しており、5.2%の人が「不満」でした。66.7%の人は「どちらともいえない」となっています。

本村が今後力を入れるべきことは、「学習や活動に関する講座などの情報提供を充実する」が最も多く、次いで「住民のニーズや満足度などを把握し、反映させる」「学習や活動に関する講座を充実する」「各種団体の自主的な活動を活発にさせたり、その活動を支援する」などが上位となっています。

① 村の生涯学習施策の満足度〔※資料編 P77 問 18 参照〕



② 村が力を入れるべきこと（上位5項目）〔※資料編 P77 問 17 参照〕



会津米沢街道歴史交流会の活動支援



北塩原村 24 時間テレビチャリティ募金活動

4 第三次北塩原村生涯学習推進計画の成果と課題

(1) 成果

① 多岐にわたる生涯学習事業の展開

村民それぞれのライフステージに応じた生涯学習事業を展開しています。幼・小・中や保育園、村内の各種団体など様々な関係機関との連携により、幼児・家庭教育の支援、青少年や成人に対する体験活動、青年層の交流促進など、本村の特性を生かした特色ある事業を構築し、推進しています。

また、一年を通してスポーツや歴史、文化的なイベントを展開しており、その中でも世代間・地域間交流の促進を図ることを目的に開催している“きたしおばら交流フェスタ”には、約650人の村民が参加するなど、村民の5人に1人以上の方が参加するイベントとなっています。



きたしおばら交流フェスタ

② 交流人口の増加

スポーツや文化、体験活動等を通じた交流自治体や友好都市との交流を継続しながら、事業内容の充実を図っています。また、県内の市町村対抗による駅伝・野球・ソフトボール大会に参加することで、近隣市町村との交流につながっています。他にも、東京農業大学との連携や在京きたしおばら会の発足など、新たな事業が展開されており、多方面からの交流の輪が村内に広がっています。



市町村対抗福島県ソフトボール大会

③ 生涯学習施設の整備と運営

2014年（平成26年）4月に村の生涯学習の拠点となる北塩原村生涯学習センターの供用が開始しました。これにより、村民の生涯学習活動を促進するとともに、個人や団体、世代を超えた村民相互の交流が図られています。

また、村の文化財や歴史に関する展示会や講演会、体験学習メニュー等を開催するなど、村民が郷土について学ぶことのできる拠点としても活用されています。



展示室（生涯学習センター）

④ 連携・協働型事業への取組み

村民が個々の特性を生かし、連携・協働により教育活動を支援する“学校の応援団”の実績が年々増しており、質・量ともに充実した活動が展開されています。2016年度（平成28年度）にはこの活動が認められ、文部科学大臣表彰を受賞することができました。

他にも、地域活動の盛り上がりを促すことを目的とした“生涯学習モデル地区事業”や、若者や女性の活躍、社会参画を目的とした“若者や女性の想いをカタチに。事業”を新設するなど、若者や女性、地域が共に学びながら連携・協働によるむらづくりが図られることを目指しています。



絵本の読み聞かせ（学校の応援団）

(2) 課題

① 気軽に学習・活動できる機会

村民アンケート調査の結果から、生涯学習の必要性の高さが伺えます。その中で、学習や活動に関する講座などの情報提供や、誰でも気軽に参加できるような講座や行事の充実を望む声が多く聞かれました。

ライフスタイルや価値観の多様化を背景に、村民が今後取り組んでみたいと考える学習や活動は幅広い分野にわたっていますが、健康や体力づくりの分野は、比較的多くの村民が興味を持っており、生涯学習のきっかけづくりとしての関心が高いことが分かります。年齢別にみると、20～30歳代はスポーツやレクリエーション活動、60歳以上では趣味や健康管理に関する事など、世代で関心が異なっており、また、子育て世代は「時間に余裕がない」、高齢者は「一緒に活動する仲間が少ない」など直面している課題も様々で、関心やライフステージを踏まえて、参加の機会を充実させていくことが求められています。

また、情報の取得方法の中で、比較的若い世代ではインターネットの利用が多く、情報提供の方法を検討する必要があります。



スポーツ推進委員によるビーチボールバレー教室

② グループ活動の環境づくり

生涯学習のグループ・サークル活動は、学び合いや力を合わせることを通じて、人と人を結んでいく貴重な場といえます。

団体アンケート調査では、「新たなメンバーの確保」や「団体の活動紹介」を課題としてあげている団体が多い反面、既存団体の存在や活動内容を把握している村民が少ない状況です。よって、団体の活動を様々な方法で村民に紹介していく必要があります。

併せて、グループ・サークル活動の充実や新規発掘のためには、多様な考え方を持つ村民の調整役や相談先となるリーダーの育成を図る必要があります。



あやめ会による村イベントでのおもてなしブース出店

③ 「村民ひとり1スポーツ・1文化」運動の推進

国が定めるスポーツ基本計画では、2021年度（平成33年度）末までに成人の週1回以上スポーツ実施率65.0%を目標としています。2015年（平成27年）6月現在の国の実施率は40.4%です。本村の実施率は今回の村民アンケート調査の結果によると41.3%となっています。文化的な活動は14.7%です。

スポーツは、運動能力や体力の向上のみならず、青少年の健全育成や心身の健康保持、地域社会の再生など、多面にわたる役割を担っています。スポーツを通じて村民が幸福で豊かな生活を営むことができる社会を目指す必要があります。

また、文化的な活動については、趣味や芸術を通し、人とのふれあいで身体や心に刺激を与える役割を担っており、特に高齢者に対する生きがいがづくりの場としても必要な活動です。しかし、文化的な活動が何を示すのか、人によって捉え方が異なることから、村としての計画をつくるにあたり、その定義を行う必要があります。



スイスイ健康教室

④ 地域社会貢献活動の展開

村民アンケートでは、知識・技能・経験を地域活動やボランティア活動に活かしていくことに肯定的な人が多くみられます。特に、自然豊かな土地柄から、環境美化や保全など、自然や環境に関するボランティア活動を希望する村民が各世代で上位となっています。一方で、学習や活動の今後の活用方法についての設問に対し、全ての世代で最も多いのは「自己の充実や自分の生活の改善などに活用したい」となっています。

村民が学んだ成果を地域社会に還元し、より豊かな地域社会をつくっていき、そのような地域社会から村民がさらに力を蓄えていく好循環を生むことを目指し、生涯学習を通じて得た知識などを活かす活動を支援していく必要があります。



趣味愛好会による体験教室

⑤ 情報提供の充実

本村では様々な生涯学習事業を行っており、生涯学習施設も整備されています。また、村が行う事業以外にも、村民が主体的に行う学習会や教育機関などが行う生涯学習事業があります。しかし、村が行う事業や公共施設、村内で活動するグループ・サークルについては認知度が低いものが多く、特に若い世代の認知度が低くなっています。このため、多様な手段を通じて、様々な生涯学習情報を提供していく仕組みをつくる必要があります。



食生活改善推進員による主催事業（アスパラ収穫体験）

⑥ 生活圏における生涯学習機会の創出

本村は、喜多方市や猪苗代町、会津若松市などに通勤、通学者が多く、さらには買い物などの面で生活圏となっています。当該自治体には、平日夜間や休日などに開館する体育、文化施設があり、また、民間や住民団体などによるスポーツ、文化教室、サークルなども数多くあります。

本村は小規模自治体であるため、一人ひとりに応じたニーズを満足させる環境を整備することは困難であることから、生活圏にある環境も含め見つけ直す必要があります。

近年は、スポーツ少年団や中学校部活動に関して、希望する競技がないことに対して悩みを持つ家庭も多いことから、近隣自治体の活動環境の情報を共有する必要があります。

また、本村で盛んなスポーツ競技、文化活動の情報を村外に発信するとともに、入会者の門戸を積極的に開くことにより、他エリア住民の入会などが促進され、地域が活性化することも期待されます。



やどかりクラブ（公民館事業）による他エリアでの体験